

# アママス

*Salvelinus leucomaenis f. Leucomaenis*

サケ科



アママス

## 名前の由来

不詳。「マス（鱒）」は「増す」で、その繁殖力が旺盛なことから付いたという。海に下らず一生を川で過ごすものはエゾイワナと呼ばれる。漢字名：雨鱒

## 特定種

該当なし。

## 形態的特徴

全長14~70cm 体型は丸太状。暗褐色、暗灰色、銀白色の地色、瞳と同大かそれより大きい白色の斑点がある。脂ビレをもつ。脂ビレとはサケ科、キュウリウオ科《アユの仲

間も含む》、熱帯魚のカラシン亜目にのみ見られる、背ビレと尾ビレの間のヒレ。条《スジ》がない。

## 類似種と見分け方

オシヨロコマ。

オシヨロコマには体側に朱紅点があるが、一方アママスに

は、白点はあるが朱紅点はない。



アママス



類似種、オシヨロコマ。朱色の点が存在する

## 生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
産卵期〈河川〉									■			
孵化期〈河川〉	■	■										
幼魚〈河川〉	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
銀毛化・降海			■	■	■							
成長期〈海〉	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
遡上産卵期〈河川〉					■	■	■	■	■	■	■	■

1~3年

未成魚も遡上、河川で越冬するものも

産卵後死ぬ個体と越冬・降海する個体がある

## 一 生

ふ化後、主として3年目の春に、幼魚の多くが鮮やかに銀白化（銀毛、スマルト）し、海へ下る。

1～2年の海洋生活の後、夏前に増水した河川に遡上して秋に産卵する。成熟しないまま河川に入って越冬するものもいる。

産卵が終わった成魚は死亡する個体と、死亡せずに越冬後降海し再び遡上する個体がいる。産卵後河川生活を続けるものもいるという。寿命は長くても7年。

成長後も海に下らず、一生を川で過ごすもの（河川残留個体）はエゾイワナと呼ばれ、体長は30cm程度までである。

## 生息環境・分布

河川では、上流の礫底で瀬や淵がはっきりしているところに生育している。

**分布：**ユーラシア大陸の東端付近、ベーリング海に面したナバリ岬。国内分布は、北海道、最上川および利根川以

北の本州。北海道内では全域に分布。

十勝地方では、ほとんどの河川に生息。本来は主に上流域に生息して、海から溪流まで広く移動する魚だが、十勝川では河口～利別川合流点に多い。

## 食 性

水生昆虫など動物食。大型になるにつれ魚食性が強まるという。カエル、ミミズ、あるいはザリガニや野ネズミをも

捕食するという。

## 繁殖生態

産卵期は北海道では9月下旬～10月中旬で、礫底に産室を掘り、産卵後に礫をかぶせる。産卵数1,500粒以上。1月

～2月にふ化する。降海個体の卵はオレンジ色、河川残留個体の卵は黄白色。

## 他生物との関わり

魚食性の陸上動物や鳥の餌になるとされる。

生息場所の中心はオショロコマより下流域に、サクラマス

やヤマメよりは上流域に位置するという。

## 興味深い話

■サケやカラフトマスのように卵から孵化後まもなく海に下るのではなく、孵化後2～3年経ってから、降海する。降海後はほとんど沿岸域で過ごす。冬に海で釣られることが多く（海アメ）、早春に下流域で釣られることが多い。

■ジャンプ力が強く、滝などを上る能力は、日本産サケ科魚類のなかで最も高いと考えられる。

■他の魚の幼稚魚や蚊、ザリガニあるいは野ネズミまで食べていることもある。このためサケやサクラマスの養殖に対する害魚とされる。

■河川の上流など冷水域を生息場所とするが、オショロコマに比べ高水温に強いという。また、北海道では最高水温

が約20℃以下であれば平地の川にも生息しているという。味はヤマメより落ちるが、夏～秋のものはおいしいという。ただ寄生虫を持つことがあるので野生のものは加熱処理して食べる方がよい。

■十勝地方のアイヌ語では「ツクツクシシ」という。他の地方ではトクシュン（トウシシュウン）と呼ばれるという。支笏湖と洞爺湖の間、大滝村にある徳舜瞥（とくしゅんべつ）山の名前の由来は「トウシシュウンベツ（アメマスのいる川）」だという。

## 配慮事項

メスの多くとオスの一部が、降海して成長し産卵時に上流域に遡上する生活史を持つため、遡上可能性が高い方がよい。川岸の植物カバーは隠れ場所に、河床の礫は産卵場所に利用される。成魚には深みも必要なので、川底の起伏も

必要。水温15℃以下の山地溪流部を好む。（北海道では平地の川にもいるが水温は20℃以下）

### 参考文献

「山溪カラー名鑑 日本の淡水魚」川那部浩哉・水野信彦 編・監修、山と溪谷社 1989

「漁業生物図鑑 北のさかなたち」長澤和也・鳥澤雅 編、(株)日本海洋センター 1991

「川づくりのための魚類ガイド」北海道河川環境研究会、(財)北海道建設技術センター2001

「野外ハンドブック・10 魚 淡水編」桜井淳史 山と溪谷社、1981

「図説 魚と貝の大辞典」望月賢二 監修、魚類文化研究会 編、柏書房 1997

「動物名の由来」中村浩、東京書籍、1981

「北海道の淡水魚」稗田一俊、北海道新聞社、1984

「North Angler's Vol.7 別冊つり人Vol.124」つり人社、2000

「サケ・マス魚類のわかる本」井田齊・奥山文弥、山と溪谷社

2000

「本別町生活文化誌 抜刷 第九編 アイヌの生活と文化」

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類